院内がん登録データ利活用への取り組み

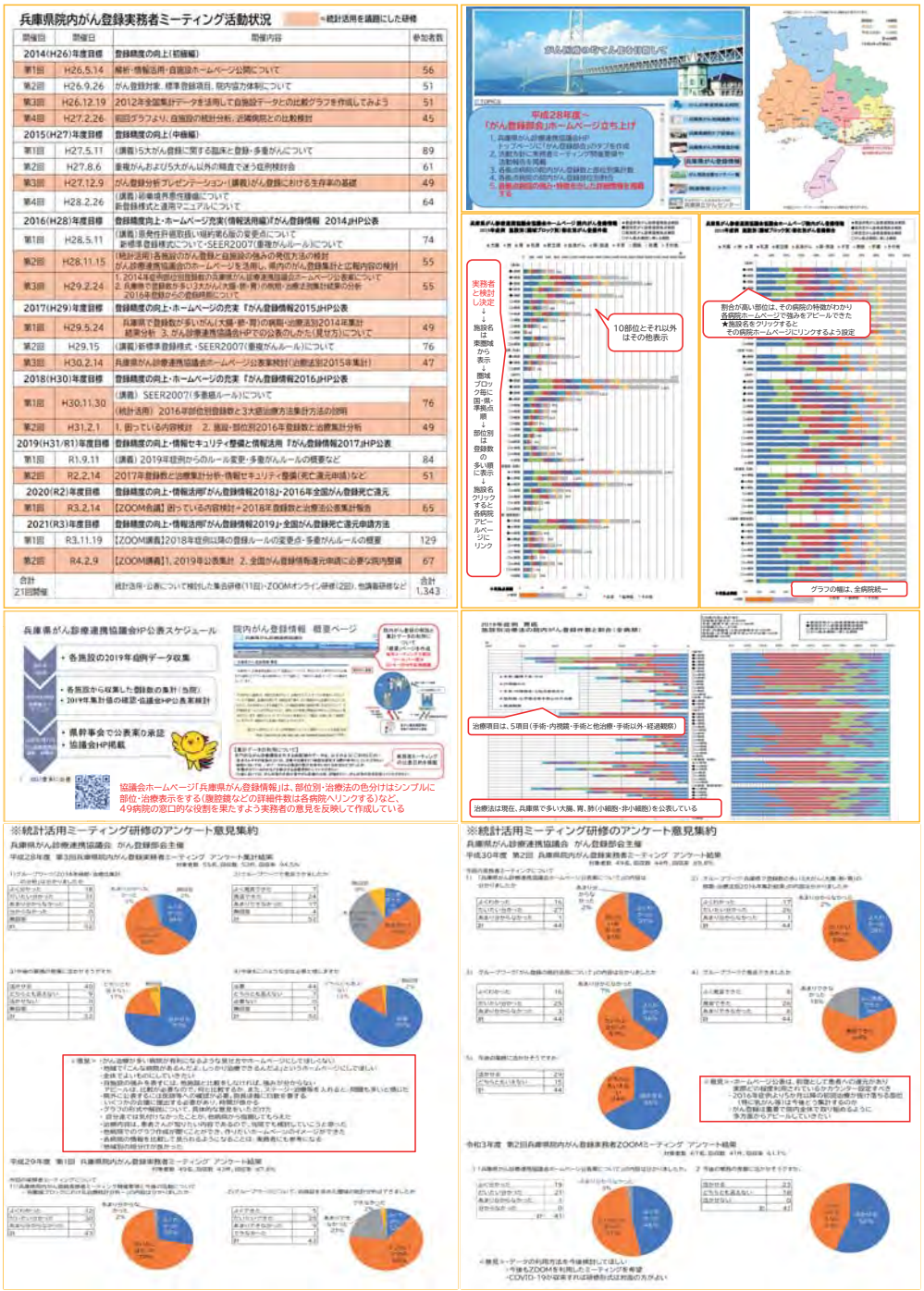
－兵庫県がん診療連携協議会　がん登録部会　実務者ミーティングの活動報告－

兵庫県立がんセンター　山口　真理子、栗原　有知子、西尾　渉
姫路赤十字病院　安東　正子

【目的】 兵庫県がん診療連携協議会(以下、協議会)では、院内がん登録の精度向上のために、実務者の育成とデータ集計・分析などを行っている。平成26年度より、院内がん登録実務者ミーティング(以下、ミーティング)を開催し、研修や情報活用の検討を開始した。
8年間で21回開催したミーティングで行った取り組みを報告する。

【方法】 県内49拠点病院を対象にミーティングを年2～4回定期開催した。平成28年より年1回院内がん登録数と治療集計の集約と協議会ホームページ「兵庫県がん登録情報」（以下、ホームページ）の公表を行った。アンケート集計よりデータ利活用に対する意見を集約した。

【結果】 開催内容は、各病院が国・県と比較して自施設の特徴を発表するなどの統計演習や情報活用・ホームページ公表についてグループワークや全体討議で検討した。 ホームページは、目的を明確に検討したことで全病院の窓口とする集計方法に決定した。各病院よりデータを集約し、協議会で承認を得て公表した。非公表病院も年々減少している。ミーティング開催後、毎回アンケート実施し結果集計を実務者に還元した。アンケート結果は、参加者数のべ1,343名、回収率85.3%であった。ホームページは、相談支援センターで病院の選択など問い合わせの参考にも活用されている。



【結論】 ミーティングやアンケート集計を次の研修や集計方法に反映させることによって、実務者の意識改革やホームページの公表実現などに繋がった。また、各病院のデータ公表や統計活用は、実務者の登録精度の見直しに繋がり、データ集約が浸透してきた。公表した登録数と治療集計は、全病院を圏域ごとに表示し、詳細情報ページで各病院の特徴をアピールできるようにした。治療内容も手術・手術以外で色の区別をすることにより病院の治療選択アドバイスとなる情報提供に活用され、近隣病院の身近な選択肢に繋がっている。

【日本がん登録協議会　第31回学術集会　COI開示】 筆頭演者名：兵庫県立がんセンター 山口　真理子
当演題発表に関して、開示すべきCOIはありません。